

中途退部者はコンプレックスをどう語るのか

植田 朋浩（競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース）
指導教員 豊田 則成

キーワード：中途退部，コンプレックス，過剰意識，葛藤，自己受容

1. 緒言

本研究では中途退部を経験した学生を対象に「中途退部者はコンプレックスをどう語るのか」というリサーチ・クエスチョン

(Research Question:以下 RQ と称す)を設定し質的にアプローチした。そこでは、中途退部を経験した学生が抱えるコンプレックスについての語りから発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とした。

2. 研究方法

情報提供者 (Informant : 以下 Inf. と称す) を大学の部活動を 3 回生までに中途退部した学生 9 名を対象とし 1 人あたり 45 分～60 分程度の半構造化インタビューを実施した。

3. 結果と考察

本研究では、上記の RQ の元、中途退部コンプレックスを抱える学生は『部活を辞めることでコンプレックスを抱え、自分を守り、現実と向き合うことで変わろうとするが、中途退部をしたという事実には変わりはなく、不安を抱える。しかし、退部経験を割り切り、活かそうと発想を転換させることで、コンプレックスと共存し、新しい自分を構築する』という仮説的知見を導き出した。(Fig.1 参照)

4. まとめ

中途退部者は過剰に意識を持つことで、コンプレックスの深みにはまり、退部経験を割り切ることで、中途退部コンプレックスとうまく共存していくことができることが明らかとなった。

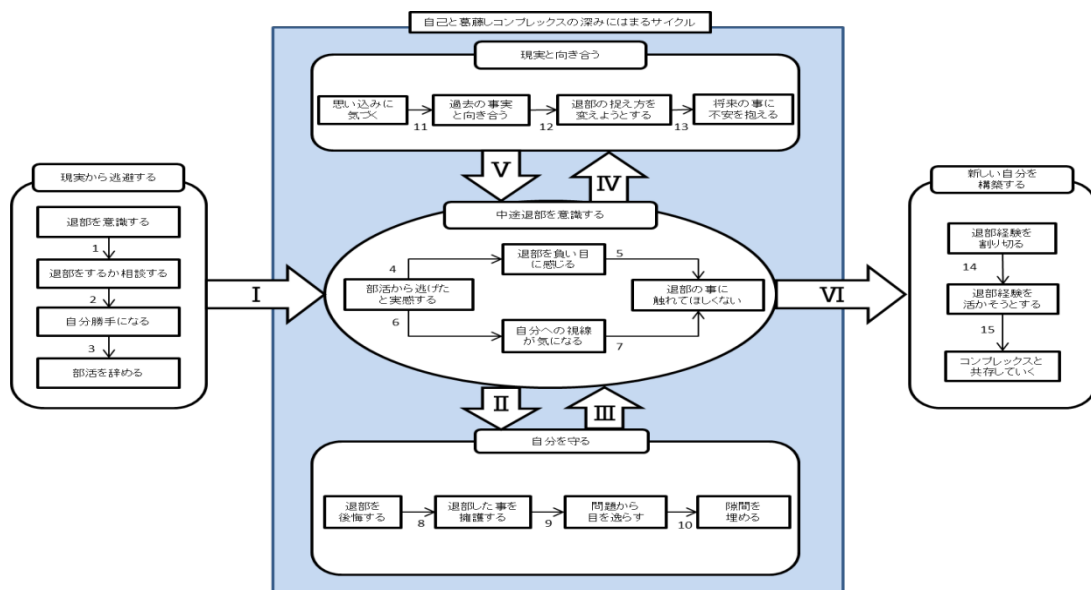


Fig1. 中途退部者が抱えるコンプレックスと共存していくプロセス